

# Golden Ratio Encoder の拡張

岡田 真明<sup>1</sup> 来嶋 秀治<sup>1</sup>

**概要:**  $\beta$  展開は,  $1 < \beta \leq 2$  を基として実数値をビット列に変換する手法である. 岡田, 来嶋は黄金比  $\varphi = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$  を基とする  $\beta$  展開におけるセグメントの配置の種類を有限に抑える閾値パラメータ  $\nu$  の十分条件を示した. Daubechies 達は黄金比  $\varphi$  を基とする  $\beta$  展開を実装する手法として Golden Ratio Encoder を提案した. 本論文では Golden Ratio Encoder を拡張し,  $\varphi$  以外の代数的数を基とする  $\beta$  展開に対応させる手法を提案する.

## Extension of the Golden Ratio Encoder

**Abstract:**  $\beta$ -expansion is a method to translate a real number to a bit sequence with a base  $\beta$ . Okada and Kijima proved that the number of locations of segments is finite for a base  $\varphi = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$  when threshold  $\nu = a\varphi + b$  with rational number  $a$  and  $b$ . Daubechies et al. proposed the golden ratio encoder which is A/D conversion algorithm based on  $\beta$ -encoder with  $\beta = \varphi = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$ . This paper proposes an extension of the golden ratio encoder that correspond to  $\beta$ -expansion with an algebraic number  $\beta$ .

### 1. はじめに

$\beta$  展開は実数値を基  $\beta$  でビット列に変換する手法であり,  $\beta$  写像  $C_{\beta,\nu}$  によって定義される.  $\beta$  写像は基  $\beta \in [1, 2)$  と閾値  $\nu \in [1, \frac{1}{\beta-1}]$  を用いて定義される.  $\beta$  写像はカオス的性質をもつため, ある初期値の  $i$  回  $\beta$  写像を計算することは, 定義にしたがって計算する以外の方法では困難である.

$\beta$  展開は, 固定された  $\beta$  に対して閾値  $\nu$  がとりうる値にある程度の幅がある. そのため正確でない比較器を用いて実装することが可能であり, A/D 変換への応用が考えられる [1]. 牧野らは,  $\frac{1+\sqrt{5}}{2} \leq \beta \leq 2$  である  $\beta$  展開について, ビット列の長さ  $L$  に対して入力値とその復元値の平均二乗誤差を  $\frac{1}{12}\beta^{-2L}$  で抑えられることを示した [3]. この誤差解析において, セグメントとよばれる概念が用いられている. セグメントはビット長  $L$  に対して最大  $2^L$  個存在するが, その配置の種類は高々  $2L$  個である [3]. 富田はビット長  $L$  に対するセグメントの配置が  $2L$  個,  $L+$  定数個, あるいは定数個の 3 つの場合に分類されることを示した [4]. 岡田, 来嶋はとくに  $\varphi = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$  を基とする  $\beta$  展開について, 有理数  $a, b$  を用いて  $\nu = a\varphi + b$  と書ける場合にはセグメントの配置が有限となることを示した.

Daubechies 達は Golden Ratio Encoder とよばれる A/D 変換の手法を提案した [2]. Golden Ratio Encoder は  $\varphi = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$  を基とする  $\beta$  展開を正確でない乗算器を用いて実装する手法である. 黄金比  $\varphi$  は  $\varphi^2 = \varphi + 1$  を満たす, もっとも基本的な代数的数である. また Daubechies 達は tribonacci や polynacci への拡張についても示唆を与えている [2].

本論文では Golden Ratio Encoder を拡張し, polynacci を含む代数的数を基とする  $\beta$  展開に対応させる手法を提案する.

### 2. 準備

#### 2.1 $\beta$ 展開

$\beta$  展開は, 実数  $x \in [0, \frac{1}{\beta-1})$  をビット列  $\mathbf{b} = b_1 b_2 \dots$  に変換する手法であり, 以下の  $\beta$  写像  $C_{\beta,\nu} : [0, \frac{1}{\beta-1}) \rightarrow [0, \frac{1}{\beta-1})$  を用いて定義される.

$$C_{\beta,\nu}(x) = \begin{cases} \beta x & (x < \frac{\nu}{\beta}) \\ \beta x - 1 & (x \geq \frac{\nu}{\beta}) \end{cases} \quad (1)$$

ここで  $\beta$  は  $1 < \beta \leq 2$  の基であり,  $\nu$  は  $1 \leq \nu \leq \frac{1}{\beta-1}$  の閾値である. 入力  $x$  を  $\beta$  展開して得られるビット列  $\mathbf{b} = b_1 b_2 \dots$  を

<sup>1</sup> 九州大学  
Kyushu University, Fukuoka, Fukuoka 819-0395, Japan

$$b_i = \begin{cases} 0 & (C_{\beta,\nu}^{i-1}(x) < \frac{\nu}{\beta}) \\ 1 & (C_{\beta,\nu}^{i-1}(x) \geq \frac{\nu}{\beta}) \end{cases} \quad (2)$$

と定める. ここで  $C_{\beta,\nu}^i(x)$  は  $x$  に  $i$  回  $\beta$  写像をかけたもの, すなわち  $C_{\beta,\nu}^{i+1}(x) = C_{\beta,\nu}(C_{\beta,\nu}^i(x))$  である. このようにビット列を定義すると  $x = \sum_{i=1}^{\infty} b_i \beta^{-i}$  が成り立つ.

## 2.2 Golden ratio encoder

Golden ratio encoder は, 状態ベクトル  $\mathbf{u}_n = [u_n \ u_{n+1}]^T$  を用いて実数  $x \in [0, \frac{1}{\beta-1})$  をビット列  $\mathbf{b} = b_1 b_2 \dots$  に変換する手法である. 状態  $u_n$  の遷移は

$$u_{n+2} = u_n + u_{n+1} - b_{n+1} \quad (3)$$

と定義される. また得られるビット列を

$$b_{n+1} = \begin{cases} 0 & \left( \begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \mathbf{u}_n < \frac{\nu}{\varphi} \right) \\ 1 & \left( \begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \mathbf{u}_n \geq \frac{\nu}{\varphi} \right) \end{cases} \quad (4)$$

と定める. ここで  $\varphi = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$  である. このようにビット列を定義すると, 状態ベクトル  $\mathbf{u}_n$  は  $\varphi$  を基とする  $n$  回  $\beta$  写像に対応することが以下のとおり確認される ([2] 参照).

**命題 2.1**  $u_0 = 0, u_1 = x$  とすると, 任意の自然数  $n$  に対して

$$C_{\varphi,\nu}^n(x) = \begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \mathbf{u}_n \quad (5)$$

が成り立つ.

**証明 1** 帰納法で示す.

(1)  $n = 0$  のとき

$$\begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \mathbf{u}_0 = \begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 \\ x \end{bmatrix} = x \quad (6)$$

であるから確かに正しい.

(2)  $n = i$  のとき命題が成り立つと仮定すると,  $\beta$  写像の定義より

$$\begin{aligned} C_{\varphi,\nu}^{i+1}(x) &= \varphi C_{\varphi,\nu}^i(x) - \mathbb{I} \left[ C_{\varphi,\nu}^i(x) \geq \frac{\nu}{\varphi} \right] \\ &= \begin{bmatrix} 1 & \varphi \end{bmatrix} \mathbf{u}_i - b_{i+1} \end{aligned}$$

がいえる. ここで  $\mathbb{I}[\cdot]$  は, 括弧内の条件式が真ならば 1 を, 偽ならば 0 を返す関数である. また

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \mathbf{u}_{i+1} &= \begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix} \mathbf{u}_i \\ &\quad - \begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 \\ b_{i+1} \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} 1 & \varphi \end{bmatrix} \mathbf{u}_i - b_{i+1} \end{aligned}$$

である. したがって  $n = i + 1$  のときにも命題が成り立つ.

以上より, 任意の自然数  $n$  に対して  $C_{\varphi,\nu}^n(x) = \begin{bmatrix} \varphi^{-1} & 1 \end{bmatrix} \mathbf{u}_n$  が成り立つ.

## 3. Golden ratio encoder の拡張

黄金比  $\varphi$  は  $\varphi^2 = \varphi + 1$  を満たす代数的数である. この章では  $1 < \beta \leq 2$  を満たす任意の代数的数を基とする  $\beta$  展開に対応する, Golden Ratio Encoder の拡張を提案する.

### 3.1 拡張 Golden Ratio Encoder の定義

状態ベクトル  $\mathbf{u}_n = [u_n \ \dots \ u_{n+d-1}]^T$  を考える. ただし  $d \geq 2$  とする. 状態  $u_n$  の遷移を

$$u_{n+d} = \mathbf{m}^T \mathbf{u}_n - b_{n+1} \quad (7)$$

と定義する. ここでベクトル  $\mathbf{m}^T = [m_0 \ \dots \ m_{d-1}]$  である. また得られるビット列を

$$b_{n+1} = \begin{cases} 0 & (\mathbf{a}^T \mathbf{u}_n < \frac{\nu}{\varphi}) \\ 1 & (\mathbf{a}^T \mathbf{u}_n \geq \frac{\nu}{\varphi}) \end{cases} \quad (8)$$

と定める. ここでベクトル  $\mathbf{a}^T$  は

$$\mathbf{a}^T = \beta^{-d} \begin{bmatrix} \beta^0 & \beta^1 & \dots & \beta^{d-1} \end{bmatrix} A \quad (9)$$

$$A = \begin{bmatrix} 0 & \dots & 0 & m_0 \\ \vdots & \ddots & \ddots & m_1 \\ 0 & \ddots & \ddots & \vdots \\ m_0 & m_1 & \dots & m_{d-1} \end{bmatrix} \quad (10)$$

である.

## 4. 代数的数を基とする $\beta$ 展開との対応

上で定義した Golden Ratio Encoder の拡張手法が,  $\beta^d = m_{d-1}\beta^{d-1} + \dots + m_0\beta^0$  の実数解  $\beta$  を基とする  $\beta$  展開に対応することを示す.

**定理 4.1**  $\beta$  ( $1 < \beta \leq 2$ ) が  $\beta^d = [ \beta^0 \ \dots \ \beta^{d-1} ] \mathbf{m}$  を満たすとすると. このとき  $u_0 = \dots = u_{d-2} = 0, u_{d-1} = x$  とすると, 任意の自然数  $n$  に対して

$$C_{\beta,\nu}^n(x) = \mathbf{a}^T \mathbf{u}_n \quad (11)$$

が成り立つ.

**証明 2** 帰納法で示す.

$$\begin{aligned} \mathbf{a}^T \mathbf{u}_0 &= \beta^{-d} [ \beta^0 \ \dots \ \beta^{d-1} ] A \mathbf{u}_0 \\ &= \beta^{-d} [ \beta^0 \ \dots \ \beta^{d-1} ] \mathbf{m} x \\ &= \beta^{-d} \beta^d x \\ &= x \end{aligned}$$

より,  $n = 0$  のとき確かに正しい.

$C_{\beta,\nu}^i(x) = \mathbf{a}^T \mathbf{u}_i$  が成り立つと仮定すると

$$\begin{aligned} C_{\beta,\nu}^{i+1}(x) &= \beta C_{\beta,\nu}^i(x) - \mathbb{I} \left[ C_{\beta,\nu}^i(x) \geq \frac{\nu}{\beta} \right] \\ &= \beta \mathbf{a}^T \mathbf{u}_i - b_{i+1} \end{aligned}$$

となる。また行列  $M$  を

$$M = \begin{bmatrix} 0 & \cdots & \cdots & 0 & m_0 \\ 1 & 0 & \cdots & 0 & m_1 \\ 0 & \ddots & \ddots & \vdots & \vdots \\ \vdots & \ddots & \ddots & 0 & m_{d-2} \\ 0 & \cdots & 0 & 1 & m_{d-1} \end{bmatrix} \quad (12)$$

とおけば状態ベクトル  $\mathbf{u}_i$  の遷移について

$$\mathbf{u}_{i+1} = M^T \mathbf{u}_i - \begin{bmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ b_{n+1} \end{bmatrix} \quad (13)$$

とかける。よって

$$\mathbf{a}^T \mathbf{u}_{i+1} = \mathbf{a}^T M^T \mathbf{u}_i - b_{i+1}$$

がいえる。したがって  $C_{\beta, \nu}^{i+1}(x) = \mathbf{a}^T \mathbf{u}_{i+1}$  を示すには  $\beta \mathbf{a}^T = \mathbf{a}^T M^T$  を示せばよい。

$$\beta [\beta^0 \quad \cdots \quad \beta^{d-1}] = [\beta^0 \quad \cdots \quad \beta^{d-1}] M \quad (14)$$

であるから

$$\beta \mathbf{a}^T = \beta^{-d} [\beta^0 \quad \cdots \quad \beta^{d-1}] M A \quad (15)$$

$$\mathbf{a}^T M^T = \beta^{-d} [\beta^0 \quad \cdots \quad \beta^{d-1}] A M^T \quad (16)$$

となる。また  $A = A^T$  であるから、 $A M^T = A^T M^T = (M A)^T$  が成り立つ。よって  $\beta \mathbf{a}^T = \mathbf{a}^T M^T$  を示すには  $M A = (M A)^T$  を示せばよい。 $M A$  を計算すると

$$M A = \begin{bmatrix} 0 & \cdots & \cdots & 0 \\ \vdots & \ddots & \ddots & m_0 \\ \vdots & \ddots & \ddots & \vdots \\ 0 & m_0 & \cdots & m_{d-2} \end{bmatrix} + \mathbf{m} \mathbf{m}^T \quad (17)$$

がいえる。よって  $M A = (M A)^T$  が成り立つ。したがって、 $n = i$  で命題が成り立つならば、 $C_{\beta, \nu}^{i+1}(x) = \mathbf{a}^T \mathbf{u}_{i+1}$  も成り立つ。

以上より、任意の自然数  $n$  に対して  $C_{\beta, \nu}^n(x) = \mathbf{a}^T \mathbf{u}_n$  が成り立つ。

## 5. おわりに

本論文では Golden Ratio Encoder を拡張し、代数的数を基とする  $\beta$  展開に対応する手法を提案した。この手法を用いて、代数的数を基とする  $\beta$  展開におけるセグメントの配置の種類を有限個に抑える閾値  $\nu$  の十分条件を示すことが今後の課題としてあげられる。

## 参考文献

- [1] I. Daubechies, R. DeVore, C. S. Güntürk and V. A. Vaishampayan, Beta expansions: A new approach to digitally corrected A/D conversion, in Proc. IEEE Int. Symp. Circuits and Systems(ISCAS), pp. II-784-787, 2002.
- [2] I. Daubechies, C. S. Güntürk, Y. Wang, and O. Yilmaz, The Golden Ratio Encoder, IEEE Trans. on Info. Theory 56(10), 5097-5110, 2010.
- [3] T. Makino, Y. Iwata, K. Shinohara, Y. Jitsumatsu, M. Hotta, H. San and K. Aihara, Rigorous estimates of quantization error for A/D converters based on beta-map, IEICE, 6, pp. 99-111, 2015.
- [4] 富田祐作, 乱択  $\beta$  展開, 九州大学大学院システム情報科学府修士論文, 2018.
- [5] 岡田真明, 来嶋秀治,  $\varphi$  進展におけるセグメントタイプの個数について, 平成 30 年度 (第 71 回) 電気・情報関係学会九州支部連合大会, 2018.